

大阪薬科大学広報委員会

## ザ ク ロ

初秋の庭先を彩る果樹の一つにザクロがある。ザクロ科 Punicaceae, ザクロ属に2種あるうちの1つ *Punica granatum* L. がイラン、アフガニスタン方面から、漢の時代にシルクロードを経て中国に入ったといわれる。漢名の石榴, 安石榴は, 安石国(ペルシャ)から渡来したことより付けられた名前であり、日本には平安時代の頃に中国から渡って来たといわれ、ザクロはこの石榴を音読したものである。ザクロは原産地のイランを中心とした地域では古代国家の時代に、不死のシンボルとされていたようで、神殿の装飾、王墓の副室から出土する銀器などにこれを形どったものが見られる。またルネッサンス時代の西洋絵画にザクロの果実を画いたものが見られ、希望のシンボルであったようである。また中国でも観賞用として珍重される植物で、絵画や詩によく描かれ、うたわれている。写真は北京の故宫(紫禁城)で撮ったもので、ここでも宮廷を彩る重要な花樹(果樹)とされている。

ザクロの果実は写真で見られるように、先にガク片を残した厚い外果皮におおわれており、その内に薄い膜状の心皮で隔てられた多数の種子が入っている。果実が熟

すると外果皮が裂け、美しい赤色の種子が露出する。この種子の外皮が甘ずっぱい赤い汁液に富み、そのまま、あるいはジュースとして食用にされる。イランやアフガニスタンには非常に美味しい品種が見られるようである。日本で栽培されているザク

ロも結構美味しいものであるが、なかには甘味が少なく、酸味が非常に強くて食用にならない品種もある。このザクロは観賞用、食用だけでなく、薬用としても知られており、その根皮、樹皮を乾燥したものが生薬として名医別録以後、安石榴、石榴の名で記載され、本草綱目には根皮が驅虫効果を示すことも記されている。日本薬局方にもザクロヒの名で JP 8 まで収載されていた。根皮、樹皮が驅虫薬(条虫駆除薬)とされるほか、果皮が収れん薬とされ、その煎汁は扁桃腺炎、咽喉炎のさいのうがい薬とされる。成分としては isopelletierine (= pelletierine), pseudo-pelletierine, N-methylisopelletierine などのピペリジン系アルカロイドや ellagitannin 類が知られている。なお現中国では果皮を石榴皮、根皮を石榴根と称し、驅虫薬、止血薬に用いている。また花を石榴花といい、その煎液を鼻血、中耳炎などの治療薬としている。

(小澤 貢)



安石榴

清・吳其濬 植物名實圖考  
清朝 吳其濬「植物名実図考」

# 創立80周年記念式典盛大に挙行



森下泰理事長挨拶

本学は明治37年大阪道修薬学校として創立以後、大正14年財団法人道修女子薬学専門学校に昇格、同年10月帝国女子薬学専門学校と改称、昭和7年現在地に移転。昭和25年新制大阪薬科大学となり、以降幾度の変遷を経て本年、創立80周年を迎え、59年10月16日に記念式典、記念講演、祝賀会が右記スケジュールにより行なわれた。

当日は大阪府知事 岸 昌殿をはじめ、御来賓の祝辞を賜わり、全国各地より各界の名士 300 余名の御臨席のもとに記念式を盛大裡に終了することができた。



堀屋太一氏の記念講演

なお、当日、本学創立以来の「八十年史」が年史編纂委員会、資料提供者等の御努力、御協力により刊行された。

## ◎記念式典 午前10時30分 於体育館

- |         |            |        |
|---------|------------|--------|
| 1. 開式の辞 | 事務局長       |        |
| 2. 学歌斉唱 | コーラス部      |        |
| 3. 挨拶   | 学長         | 堀田 輝明  |
| 4. 式辞   | 理事長        | 森下 泰   |
| 5. 祝辞   | 大阪府知事      | 岸 昌殿   |
|         | 日本薬剤師会     |        |
|         | 会長         | 高木敬次郎殿 |
|         | 日本私立薬科大学協会 |        |
|         | 会長         | 松田 秀郎殿 |
|         | 同窓会会長      | 曽根 節子殿 |
| 6. 祝電披露 | 文部大臣、ほか70通 |        |
| 7. 表彰   | 法人役員功労者    | 3名     |
|         | 教職員永年勤続者   | 48名    |
| 8. 閉式の辞 | 事務局長       |        |



記念祝賀会

## ◎記念講演 午前11時30分 於本館3階31教室

「関西21世紀への展望」

堀屋 太一氏

## ◎祝賀会 午後12時40分 於体育館

# 創立八十周年を契機として

学長 堀 田 輝 明

去る10月16日、大阪府知事、日本薬剤師会長をはじめ来賓300余名を迎えて、創立80周年記念式典を本学において挙行できましたことを慶びたいと思います。一口に80年といいますが、20世紀初頭より今日まで、明治・大正・昭和の三代に亘る激しい社会変動の中で、はじめは小さな塾のような学校からはじまり、幾多の起伏ある苦難の道を踏破して、現状にまで発展して来たわけでありますから、その間、本学の命運を荷われた先輩各位の御努力に深く敬意を表したいと思います。

本学が大阪という薬業界の中心地に位置するという幸運に恵まれているとはいえ、今後21世紀へ向けて、いかなる選択をして行くかは、非常に大切であり、また緊急を要する課題でもあります。その理由は、日本の薬学及び日本の薬剤師の在り方が、今後次第に変様を求められる気運にあるということです。

わが国の薬学が明治以降、薬を作り出すための研究に力点がおかれて発展を遂げ、それなりの成果をあげて来ましたので、薬学教育もその方面の基礎にかゝる化学教育が主として行われて来ました。他方、調剤技術は長く薬剤師の専門技術として、薬学教育の中にもとり入れられておりますが、戦後の急速な製剤技術の進歩による製薬企業の成長は、薬局における調剤技術を単純化、機

械化あるいは無用化させて来ました。薬学研究ひいては薬学教育の中心が従来の伝統ある創薬のための化学教育と調剤技術の習得だけでは、医療行為の枠組みの中での薬剤師あるいは薬学の力が十分に発揮されません。近時、生体機能と薬のかゝりわりの研究、つまり薬効・薬剤学的な薬の使われ方についての立入った研究、さらにはそれに関係する教育が重要視されて来ている所以です。生体内での薬の作用を化学的に解明しつつ、医学と手を取り合って、すぐれた薬の選択を示唆しうる力を蓄えて行かねばならないでしょう。

もう一つの難問は、近々10数年間に、大学進学者数の大巾な変動が起ってくることです。いわゆる団塊の世代の子供たちが大学進学の時を迎えるわけで、昭和61年より大学進学者は急速に増え、昭和67年をピークにその後はまた急速に減少し、昭和72年には現在よりも更に減じるという変化が予測されることです。この時期に再び大学増設のブームがでて来るきざしも現に見えて来ますが、これは急減期には大学崩壊の危機をはらむ問題となります。

本学としては、この期を大学の質的充実に力を注ぎ、財政面でも力を強くして、わが国有数の私立薬大として生き残る道を確立して行かねばなりません。薬学の新しい研究教育課題に挑むためにも、第2校舎の活用を含めて施設の充実ははかって行くべきでしょう。片方では、一部で主張されはじめている薬学教育年限延長問題の中心課題である病院などでの実地研修について、現行カリキュラムの中でも試行的に行える道を模索して、将来の変化にも充分対処して行ける態勢をとって行くことが必要でありましょう。

薬学生の道は狭まるどころか、いよいよ広く大きく開けようとしています。それはつねに他の学問分野の人たちとの協力を必要としています。薬学生の学ぶべき領域の広さにたじろがず、薬学生のみにも与えられる薬剤師として、医療世界の中で今まで以上の力を発揮できるように学生諸君の奮起を望みます。



## 教務部だより

### ●昭和60年度大学院修士課程入学試験

本学の昭和60年度大学院修士課程入学試験が、去る10月4日(木)に実施された。当日は、例年に比べて多い26名〔学内23名、学外3名(徳島文理大・薬、東北薬大、大阪工大各1名)〕の志願者が、専門科目および外国語の試験と面接試験を受験した。合格発表は、10月8日(月)に行われ、合計20名〔学内19名、学外1名(徳島文理大・薬)〕が、合格した。

専攻科目	合格人数	専攻科目	合格人数
薬化学	4	薬品製造学	1
生化学	3	微生物化学	4
薬剤学	3	薬理学	3
薬品分析学	1	薬品物理化学	1
生薬学	0	衛生化学	0

### ●特別実習発表会の廃止

特別実習発表会は、特別実習の成果発表の場として、例年2月末に行われて来たが、本年度から廃止となっ

た。特別実習の成果のまとまるこの時期は、4回生にとって国家試験受験勉強の時期でもあり、発表の準備に要する負担を少しでも少なくするために、従来行われていた全教室同時に行う発表会を、取止めることとした。

ただし、教室によって、教室単位で発表会が行われるところもある。

### ●試験結果の発表方法について

本年度から、前期再試験、後期再試験および最終試験に関する成績結果の発表方法が、次に示す様に変更された。上記試験結果については、従来行われていた担当教官による各科目ごとの掲示は行われず、教務課において、全科目まとめて発表される。したがって、受験者は、行事予定に示した日時に、本館西2階の掲示板に発表される成績結果を確認するようにしてください。

なお、前期および後期の本試験の結果に関しては、従来通り各科目の担当教官から発表される場合もある。また、前期本試験の成績結果は11月に、後期本試験の成績結果は6月に、それぞれ従来通り、アドバイザーの所へ成績票を各自受取るようにしてください。

## 学生部だより



学生部長 栗原拓史

学生部関連事項というテーマで、学報への原稿依頼を受けた。そこで、ここ数ヶ月間に亘って学生部が関与した事項についてお知らせしたく筆をとることにした。

恒例の三葉大学生部長会議が9月7日(金)、神戸女子薬科大学主催で、神戸商工貿易センタービルで行なわれた。

主な協議事項としては、各大学保有のセミナーハウスの利用状況(残念乍ら本学にはセミナーハウスがない)について、各大学独自の奨学制度の利用状況、およびその返還状況について、学外病院実習の実体と実習中の災害・傷害、および病院側に与えた損害に対する補償につい



新設の単車専用置場

て、更に、京都薬科大学に就職指導部が新設されたことと、それに伴い、今年の学生の就職の見通し等、いくつ



好評だったみこし（大薬祭）

かの共通する問題についての討論がなされた。本学からも、入学試験時の健康診断について、自動車通学禁止に伴う単車通学の増加、並びに、大学周辺の不法駐車対策についての議題を提出した。特に後者は、各大学共、大変頭を悩ませている問題である。本学では、夏休み中に、単車専用置場が新設（105台駐車可能）され、その効果に大変関心のある所であった。まことに幸いなことに、夏休み後、前期のテストが終わり、後期授業が始まった当初は、多少、違反者もいたが、今では学生諸君も、自転車、単車共、それぞれ決められた場所へと、ルールを守ってくれ、喜んでいる次第である。ただ、大学周辺の不法駐車は、数はそれ程多くはないが、時折、住民からのクレームが後を絶たず、学生諸君の一層の協力自粛を望む次第である。

さて、学内に目を向けると、長い間燃り続けていた軽音・フォークソング部の練習場の騒音問題にも、一応の解決がなされた。完全を期すには、余りに多額の費用を要することもあり、ある程度の防音設備と周囲の植樹により、住民も大学側の前向きな姿勢を理解してくれたのか、その後は、騒音に対するクレームがないのは幸いである。なお、クラブ員が練習時間等の問題に協力してくれた結果であることを付け加えて置きたい。それによって、学生クラブハウスの囲りが美化され、学生の憩いの場所として、大いに利用されるものと考えられる。さらに創立80周年記念として、父兄会から植樹の申し出があり、銀杏・櫻が植えられた。これらが立派に成長してくれることを願う次第である。また、野遠グラウンドに、サッカーのシュート板が新設された。サッカー部のみならず、体育の授業においても大いに利用されるものと思う。

学生会執行部が中心となり、年2回、大学内で献血が行なわれている。実体は、1回に80名程度の申込みが有

り、その内、2割程度が採血不能となる為、大体、60名程度の人数と云うことになる。折角、献血車が6～7時間にも亘って来ているのであるから、今少し多くの協力者があっても、個人的には考える。

今年も、第19回大薬祭が11月1日～4日に開催された。ほゞ例年通りの企画であったが、今年は「みこし」を担いで近辺を練り歩き、好評のようであった。期間中、ご参加下さった多くの先生方に、この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。なお、11月26日に、学生会執行部と学生部委員とで、大薬祭の反省会が催されたが、より良い形で次年度に引き継がれて行く事を望む所である。11月一杯で、現執行部の任期が終り、先般、次期執行委員長も信任投票により、無事、信任された。12月8日には、学生大会が開催され、新旧執行部の交替が行なわれることになっている。今、盛んにタテ看板等で目に付いている生協問題が、これからの大きな課題のようであるが、この是非については、今後の論議に待たねばならないと考えている。

学内中庭の美しく色付いた銀杏の葉も散ち初めている。12月に入れば、日本私立薬科大学学生部長会議が、京都薬科大学主催で開催されるが、それが終われば今年も終りである。近頃感じることであるが、学生諸君の病氣、怪我、そして入院と云った事が多い。一層の健康自己管理を望みたい。そして皆でより良い新年を迎えたいものである。

## 就職部だより

### 就職状況中間報告



就職部長 田中千秋

11月半ばを過ぎ本年度の就職戦線は後半戦を迎えている。製薬会社に始まり、大学院、病院研修生、病院薬局、公務員採用試験と進み、一部の病院の求人待ちとともに最後の販売業に目を向けざるを得ない時期となった。本年度の求人の見通しとしては、一般企業では慢性的不況からの一部回復のため若干上向き傾向であるが、製薬業、病院等医療関連業界では相づく保険薬価引下げによる業績悪化に伴う求人自粛傾向であると指摘されていた。また、

公務員の採用も臨時制度調査会の答申と税金収入の停滞から多くは期待できない。一方、本年度薬系大学の卒業予定者はおおよそ国公立大学17校1,400名、私立大学29校6,000名、合計7,400名であり、その内女子は5,000名以上という多数に上る。このような現状から予想されたが、事実特に女子の求職は厳しく数倍を超える競争率の企業が普通であり、多くの諸君が競争に負け、泣かされたのである。以下、現在の就職（進学）内定状況を表示し、さらに就職志望状況、求人状況をまとめて今後の就職指導の参考に供したいと思う。

まず、現在の内定状況を表Ⅰに示す。内定者は男子では74.6%、女子では39.7%となる。男子では製薬会社内定者および大学院進学者が群を抜いている。公務員、病院薬局の受験中の者および進路不明者が若干残っている。女子では製薬会社、病院薬局、病院研修生が主な内定先である。病院薬局受験中の者および進路不明者が多数残っている。なお、修士課程修了予定者の8名は全員製薬会社等の研究、開発部門に内定している。

つぎに、就職志望状況を表Ⅱに示す。志望順位は男子

では製薬会社（営業、研究、学術）、大学院、病院、公務員、販売業の順であり、女子では病院薬局、製薬会社（研究、学術）、公務員、販売業の順となる。特徴は男女ともに上位二者に志望が集中していることである。一方、求人状況は表Ⅲに示すように男子では製薬会社の営業（医薬品情報担当者）と研究、学術部門の求人が多く、ついで販売業、病院薬局と続いており、求人数が志望数を大巾に上回っている。女子では求人数は相対的に少なく、病院、製薬会社、販売業の順となる。なお、臨床検査技師の求人は大手病院と検査センターに限られ、かつ少数である。また、求人側の経営規模（資本金、床数）をみると表Ⅳに示すように製薬会社では大手企業からは男子の営業担当者が求められ、研究、学術部門の求人は男女とも中小企業からのものが主である。病院薬局の求人も500床以下の個人病院が主であり、国公立病院の求人は皆無である。大手病院への就職は公務員試験や大学病院研修生からのルートに限られることを示している。販売業には大手スーパー、チェーン店が含まれ、経営規模は中小の製薬会社に劣らないことがわかる。

表Ⅰ 就職内定状況（9月卒業者9名および修士課程修了予定者8名を含む）

（S59年11月20日現在）

		製薬会社	病院	公務員	販売業	大学院	病院研修生	家業	大学職員 他	進路不明	計(%)
男 子	件数	37	8	7	5	8	2	1	1		69
	内定数	47	2	0	4	29	5	1	0		88(74.6)
	受験中	4	6	8	1	0	0	0	1	10	30(25.4)
	計	51	8	8	5	29	5	1	1	10	118
女 子	件数	42	46	3	6	1	4	3	3		108
	内定数	43	14	0	5	1	8	3	1		75(39.7)
	受験中	8	51	4	2	0	2	0	3	44	114(60.3)
	計	51	65	4	7	1	10	3	4	44	189

表Ⅱ 就職志望状況（第1志望）

	製薬会社			病院		販売業		公務員		大学院	大学職員	その他	計
	営業	研究	学術	薬局	研修	薬局	卸売	国家	地方				
男子 (%)	23	13	11	10	6	6	1	2	9	34	0	3	118
	(39.8)			(13.6)		(5.9)		(9.3)		(28.8)		(2.5)	
女子 (%)	1	58	20	82	3	6	1	0	11	2	4	1	189
	(41.8)			(45.0)		(3.7)		(5.8)		(1.1)	(2.1)	(0.5)	
計 (%)	24	71	31	92	9	12	2	2	20	36	4	4	307
	(41.0)			(32.9)		(4.6)		(7.2)		(11.7)	(1.3)	(1.3)	

以上のような求人情勢は当分続くものと考えられるので、就職希望者は可及的早期に就職に対する方針と対策を立てるとともに適切な自己評価と柔軟で迅速な対応を

図らねばならない。また、当面の問題として就職未定者は現実を直視して大口の求人先である販売業に目を向ける必要があるのではなかろうか。

表Ⅲ 求人状況

(S59年11月20日現在)

	製薬会社		病院		検査センター		販売業	その他*	計
	営業	研究 学術	薬局	臨床 検査	薬剤師	臨床検 査技師			
件数	264		74	3	8	4	78	8	439
男子	181	99	16	1	7	2	43		349
女子	10	82	71	2	3	2	48		218
男女不問	/	/	32	6	3	2	61	16	120
計	191	181	119	9	13	6	152	16	687

\* 大学職員，出版社，  
新聞社，学習塾，予  
備校，コンピューター  
会社

表Ⅳ 経営規模と求人内容

(1) 製薬会社

		資本金	100億 以上	~50億	~20億	~10億	~5億	~1億	~500万	~100万	1000万 未満	不明	計
男子	件数		11	17	18	17	12	57	18	32	5	4	191
	営業		26	26	22	22	11	49	10	8	2	5	181
	研究学術他		1	2	3	4	3	39	13	28	5	1	99
女子	件数		1	3	6	5	1	21	9	21	4	2	73
	営業					1		7	1	1			10
	研究学術		1	6	6	8	1	24	9	21	4	2	82

(2) 病院

		床数	1000 以上	~500	~300	~200	~100	100 未満	不明	計
薬剤師	件数		7	7	6	7	21	19	7	74
	男子		4	4	1	3	3		1	16
	女子		9	6	10	7	19	19	1	71
	男女不問		7	2	2	2	9	5	5	32
臨床検査技師	件数		2	1						3
	男子			1						1
	女子			2						2
	男女不問		4			1			1	6

(3) 販売業

		資本金	100億 以上	~10億	~5億	~1億	~500万	~300万	~100万	~50万	~10万	100万 未満	計
件数			2	2	2	12	13	9	17	10	10	1	78
男子				2	4	5	6	9	10	3	3	1	43
女子				2	4	6	2	4	14	11	2	3	48
男女不問			4	2		11	8	8	13	4	11		61



## 薬理学 (I) 教室

教授 森本史郎

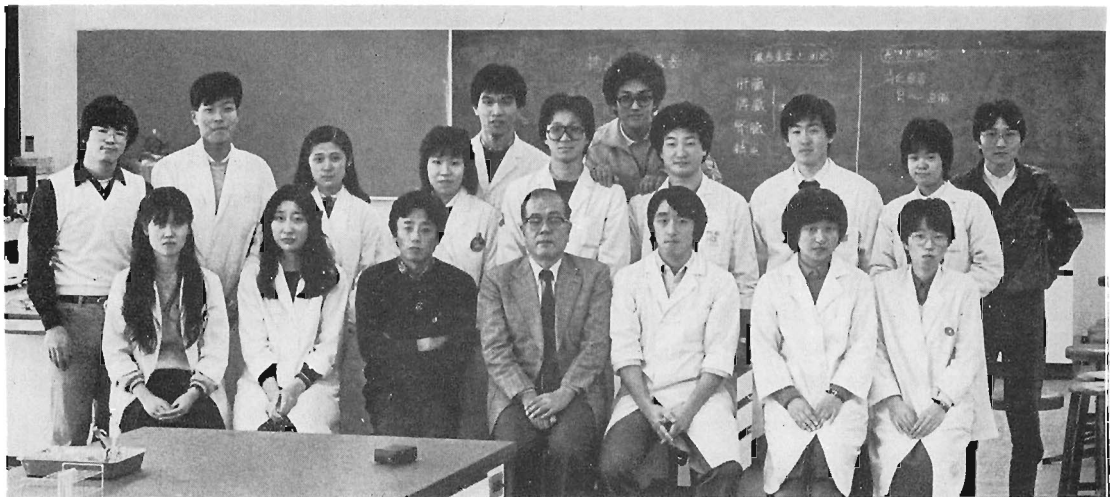


私のうけた薬学教育は、医学部薬学科といわれていた時代のもので、その内容は化学に重点がおかれており、生物系の講義はすべて医学科の先生に依存していた。私は薬品製造学教室の出身であり、合成した化合物の薬理作用は医学科薬理学教室の先生に調べ

て貰っていたが、その共同研究を通じて薬理学に興味を抱くようになり、卒後10年に薬理屋に転身した。昭和30年代に入って薬学部にも生物系の講座が設置されるようになり、本学の薬理学教室も昭和42年羽野壽先生によって創設された。翌年に羽野先生は退職されたが、昭和47年に私が後を引継ぐことになった。教室に長い空白時代があったせいか赴任当時はこれといった研究設備もなかったが、その後大学の援助と教室員の努力によって少しずつ研究態勢が整い現在に至っている。この間、昭和49年に玄蕃宗一先生が本学に着任され、薬理学に二教室がで

きた。現在、私の教室には松村靖夫助手、高岡昌徳助手、大学院生3名、研究生1名、特別実習生11名がおり、手狭い研究室であるが、協調をモットーに大いに議論を交わしながら仕事を進めている。

現在の教室のテーマは大別して二つある。一つは新しい抗高血圧薬、利尿薬、交感神経遮断薬等の薬理作用についての研究であり、もう一つは内因性の生理活性物質に関する研究である。前者は化合物の構造活性相関を調べながら臨床的に有用な薬物を見出すことを目標にしている。後者は主としてレニン、カリクレインに関する研究であり、これらの生化学的性質や種々の条件下における動態について検討している。レニンは腎臓で合成、貯蔵、分泌される昇圧因子であるが、レニン顆粒、腎皮質切片、*in vivo* のレベルで遊離機構を調べ、さらに尿中レニンとの相関性についても検討している。カリクレインは全身的に広く分布し、様々な生理活性を発揮するが、教室では腎臓の降圧因子としてカリクレインの動態を追っている。最近、腎臓および尿から同じ性質を示す不活性型カリクレインを分離したので、これを用いて腎臓における活性型カリクレインへの転換機構を探っている。いずれも競争の激しい研究分野であるが、教室員の力を結集して努力していきたいと思っている。



(前列中央)森本史郎教授、(右)松村靖夫助手、(左)高岡昌徳助手、(他)大学院生3名、研究生1名、特別実習生11名



## 核磁気共鳴(Nuclear Magnetic Resonance)装置

昭和20年 Harvard 大学の Purcell と Stanford 大学の Bloch がパラフィンワックスや水の  $^1\text{H}$  の核磁気共鳴吸収を初めて観測して以来、この現象の有機化学への応用が注目されるようになった。核磁気共鳴(NMR)装置は、昭和28年に初めて市販され、その後、研究が積み重ねられて有機化合物への応用が確立した頃、昭和44年に本学にも Varian A-60D (60 MHz) のNMR装置が導入された。本装置によって有機化合物の構成元素のうち  $^1\text{H}$  の吸収のみが測定され、得られる情報、すなわち、水素の数、ケミカルシフト、分裂の型、カップリング定数などから有機系研究分野の基本的研究プロセス「有機化合物の構造の決定あるいは確認」が容易となり大いに活用された。しかし、昭和51年に本装置の故障が相次ぎ使用不可能になったため、新たに  $^1\text{H}$  測定用の日立R40 (90 MHz)、日立R24A (60 MHz) および  $^{13}\text{C}$  測定用日立R26 (10 MHz) の各装置が設置された。

これらの装置より高性能の機種を開発するには超大型の磁石が必須である。今まで使用されてきた永久磁石や電磁石の大型化には限界があり、100 MHz より高性能のNMR装置の開発は難しいかに見えた。しかし、近年新しいタイプの磁石である超伝導マグネットが開発され、また、フーリエ変換(FT)の技術が確立し、これらの技術を駆使して画期的な性能を持つNMR装置が誕生した。その最初の装置は200 MHzの装置であり、それから得られる情報のすばらしさは我々を驚嘆させた。本学でも本装置の導入が強く望まれてきたが、本年3月ついにこの種の装置の設置が実現した。200 MHzのほか、開発された種々の機種(270, 300, 360, 400, 500 MHzなど)のうち、トラブルが少なく最も安定した測定が期待できる Varian XL-300 超伝導フーリエ変換NMR装置(300 MHz)が選ばれた。本装置は他社の同型機種と比較して液体ヘリウムと液体窒素の消費量が少なく、また、優れたソフトウェアを持つことを特徴としている。本体は超伝導マグネットとコンピューターを内蔵するコンソールの部分から成っている。強い磁力を持つマグネットは鉄製の物体を引きつける力が強く、一旦すいつけられると取り離すことができない危険性がある。また腕時計や定期券を近づけると時計が遅れ、定期券の磁気が消えるので注意が必要である。

本装置はすでに設置されている他の機種と比較して優れた点が多く、その主なものは次の通りである。



Varian XL-300 超伝導フーリエ変換 NMR 装置

- (1) FT型(90 MHz 装置はCW型)、感度が優れている( $^1\text{H}$  で 90 MHz 装置の23倍)ため、試料が微量でも測定でき、天然の微量成分の研究に有効である。
- (2)  $^1\text{H}$  吸収において 90 MHz 装置では重なるピークが 300 MHz では分離し解析しやすい。
- (3) デカップリング、NOEなどの測定がしやすい。
- (4)  $^{13}\text{C}$  吸収(75.4 MHz)の測定もでき、そのピークはシャープで分離がよい。また新しい手法のINEPT, ADEPTが出来る、Cに結合している水素の数がわかりやすい。
- (5) C-Hのカップリング定数が求められる。
- (6)  $T_1$  測定ができる。
- (7) 構造解析の新たな手法の2D測定ができる。
- (8)  $^{31}\text{P}$ ,  $^{15}\text{N}$ ,  $^{17}\text{O}$ ,  $^{19}\text{F}$ ,  $^{23}\text{Na}$ などの核種が測定できる。
- (9) 動物の臓器の灌流実験に応用できる。

NMR装置は今まで主に有機系研究者により利用されてきたが、(1), (8), (9)などにより生物系研究分野にも応用できるようになり、その利用が期待されている。

本装置は日立R26型とともにA棟東館3階にあるNMR室に設置され、専任のオペレーターによって、各研究室から依頼された試料の測定が行われている。また日立R40(90 MHz)とR24A(60 MHz)の装置はNMR室の隣の第3機器室に設置され、前者は特別にトレーニングを受けた教職員や大学院生によって、また後者は特別実習生を含むすべての研究者によって利用され、研究に役立てられている。(沼田 敦)

## 法人新理事，評議員決定

昭和59年5月の理事会ならびに評議員会において，法人新理事，評議員が次の通り決定した。任期は向う3年間である。

長理事員	森 下 泰
評議員	石 黒 武 雄
評議員	太 田 長 世
評議員	澤 木 茂 茂
評議員	柴 田 卓 子
評議員	曾 根 節 末 雄
評議員	立 岡 末 雄
評議員	羽 野 壽 壽
評議員	堀 田 輝 明
評議員	森 坂 勝 昭 郎
評議員	赤 堀 四 郎
評議員	足 立 慶 次 郎
評議員	石 本 正 郎
評議員	小 樽 谷 三 郎
評議員	富 和 宗 一 子
評議員	中 世 古 二 三 子
評議員	永 田 岡 栄 一 子
評議員	平 岡 田 川 静 子
評議員	前 水 川 孝 孝
評議員	水 谷 泰 久 郎
評議員	宮 武 德 次 郎
評議員	森 木 史 郎
評議員	山 口 秀 夫
評議員	吉 矢 佑 佑

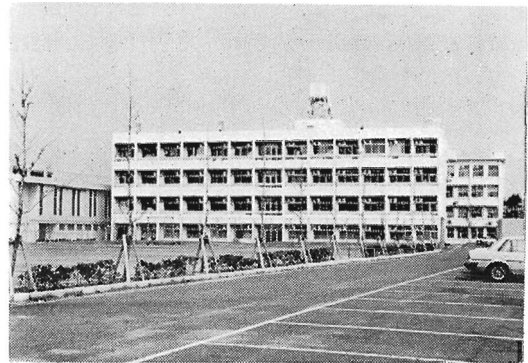
### 計 報

本学理事，元教授羽野壽先生は昭和59年6月8日病氣のため御逝去されました。謹んでお悔み申し上げます。

## 学内施設の整備について

80周年の記念行事が学内で行われることを機会に諸施設の整備を行ってきました。その概要を述べますと，先ず玄関周辺の道路舗装につきましては，経費・施工期間・工法・景観などについて種々の検討をし，期間は夏季休暇中に完成させること。工法は，在来のコンクリート舗装の上にコンクリートを塗り重ねることは表面全般を研った上でなければ密着しないという点と，単位面積毎に伸縮目地を入れなければ割離を生じるなどの難点があり密着性がよく，見た目にも美しく，且つ施工期間も短くてすむという点からカラーアスファルト（骨材入）を採用しました。工事期間中は通行に多大のご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

一方，学内の修景計画の一環として玄関周辺にケヤキ・モクセイ・ヤマモミジ・ツバキ・タマイブキ・クリシマツツジを，運動場周辺にはイチョウ・ケヤキ・シャリンバイ・サクラを，植えて緑化をはかりました。



整備された運動場周辺

又，これらに先立って，東研究棟・西実習棟・同窓会館及び守衛室の外壁・サッシその他の塗装を行い，8月末をもって完了しました。これまでの薄汚れたイメージから脱し，かなりの明るさを取り戻したことと思います。外壁は吹付タイルとし，汚れのつきにくい仕上げとしております。80年史の一文を借りれば，「……遥カニ前方ヲ仰ゲバ，小松林ヲ前景トシテ白亜ノ大建築ソツリ立ツ……」と謳われているように，本館正面部分についても早く美しく明るくしたいものです。

(施設課)

## 昭和59年度卒業教育講座の開催

薬系大学卒業者の職種を異にする様々な要請をできるだけ充足し、かつ現代の先端的課題に答えるよう昨年に引続き、59年度卒業教育講座が行われた。各分野の権威者ならびに本学の教授陣を講師として、次の日程により行われた。本講座には多数の参加者があり、来年度以降も引続き行われるよう要望があった。

○8月25日(土)

癌の特性——それは生体にとって異物であろうか——

大阪市立大学医学部教授(病理学)

藤本輝夫

食品中の重金属の存在意義

大阪府立公衆衛生研究所食品化学課長

田中涼一

○8月26日(日)

抗生物質投与方法(量)の問題点

——臨床薬理学的、臨床検査学的視点より——

田附興風会医学研究所部長 植手鉄男  
北野病院臨床検査部長

最近の中国における数種生薬

大阪薬科大学教授(生薬学) 太田長世

○9月1日(土)

β-ラクタム抗生物質の過去と現在

塩野義製薬研究所取締役 永田 達

リンパ球由来因子と修飾因子

——その医療への応用——

岡山大学薬学部教授(生物薬品製造学)

山本 格

○9月2日(日)

ビタミンB<sub>1</sub>について ——その歴史と最近の話題——

大阪薬科大学教授(薬品製造学)

平野 弘

炭菌の汚れと洗浄剤

(デンチャープラークコントロール)

大阪大学歯学部教授(補綴学) 奥野善彦

○9月8日(土)

植物組織培養の薬学的応用

京都大学薬学部教授(生薬学)

田端 守

最近の合成洗剤

プロクター・アンド・ギャンブル・

ファー・イースト・インク

研究開発本部理事 山地安夫

## 人・事・異・動

実験動物センター所長発令 (59. 6. 1)

森本 史郎(教授)

就職部長発令 (59. 6. 16)

田中 千秋(教授)

大学院薬学研究科科長発令 (59. 10. 16)

山口 秀夫(教授)

嘱託教授発令 (59. 4. 21)

生沢万寿夫(生物学)

助手発令 (59. 7. 1)

岩木 勉(電子顕微鏡室・新採用)

事務職員発令 (59. 5. 1)

福井 敦(学生課・新採用)

(59. 7. 9)

北村美智代(施設課・新採用)

(59. 7. 17)

古本 浩三(図書館・新採用)

退 任

酒井 清 教授・実験動物センター所長  
(任期満了につき) (59. 5. 31)

酒井 清 教授・就職部長  
(病気のため) (59. 6. 15)

平野 弘 教授・大学院薬学研究科科長  
(任期満了につき) (59. 10. 15)

退 職

(59. 6. 30)

山下まゆみ 助手(薬品製造学)

柞山 智子 事務職員

弓場 照美 事務職員

(59. 11. 30)

高橋喜代子 事務職員

海外留学 (59. 9. 13~60. 9)

春沢 信哉 助手

留学先 米国バージニア州立工業大学

## 学 位 授 与

〔博士〕

森本一洋 薬学博士 (59. 6. 27)

「高分子医薬品の粘膜吸収に及ぼす  
Polyacrylic Acid Gel の影響に関する  
研究」(大阪大学より)

## 後期行事予定表

〔S59年〕

10月 1日 (月)	後期授業開始
1日 (月)	就職会社訪問開始
4日 (木)	昭和60年度大学院修士課程入学試験
8日 (月)	大学院修士課程入学試験合格者発表
13日 (土)	第67回薬剤師国家試験〔臨時休講〕
14日 (日)	
16日 (火)	創立80周年記念式典〔臨時休講〕
17日 (水)	前期追試験 (3~4回生)
19日 (金)	
11月 1日 (木)	就職選考開始
1日 (木)	第19回大葉祭〔臨時休講〕
5日 (月)	
19日 (月)	昭和60年度特別実習・特別講義配属説明会 (3回生)

12月 1日 (土)	前期再試験 (1~4回生)
8日 (土)	
3日 (月)	単位獲得試験 (4回生留年者)
8日 (土)	
17日 (月)	昭和60年度特別実習・特別講義配属内定 (3回生)
24日 (月)	後期授業終了 (4回生)
25日 (火)	
	冬季休業

〔S60年〕

1月 7日 (月)	
8日 (火)	授業再開 (1~3回生)
8日 (火)	後期本試験 (4回生)
18日 (金)	
19日 (土)	後期授業終了 (1~3回生)
21日 (月)	後期本試験 (1~3回生)
2月 1日 (金)	
1月22日 (火)	後期追試験 (4回生)
25日 (金)	
28日 (月)	後期再試験 (4回生)
2月 2日 (土)	
5日 (火)	後期追試験 (3回生)
8日 (金)	
9日 (土)	第一次卒業生発表
11日 (祝)	昭和60年度学部入学試験
15日 (金)	
22日 (金)	最終試験 (4回生・4回生留年者)
17日 (日)	学部入学試験合格者発表
19日 (火)	後期再試験 (1~3回生)
27日 (水)	
20日 (水)	大学院修士論文提出
27日 (水)	第2次卒業生発表
3月 2日 (土)	第9回大学院修士論文発表会
7日 (木)	進級者発表 (1~3回生)
15日 (金)	大学院修士課程修了者発表
20日 (水)	第32回学部卒業式及び第9回大学院修了式
28日 (木)	昭和60年度特別実習・特別講義配属最終決定

## 国家試験の結果

本年度春および秋に施行された薬剤師ならびに臨床検査技師の国家試験の成績は、次の通りであった。

### ◎薬剤師国家試験

第66回 (59.4.3~4.4施行, 59.4.28発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
315名	251名	79.68%	71.09%
(285名)*	(231名)	(81.05%)	(75.42%)

第67回 (59.10.13~10.14施行, 59.11.9発表)

77名	35名	45.54%	54.30%
(9名)*	(1名)	(11.11%)	(51.43%)

※括弧内は、新卒者 (昭和59年3月または9月卒業) の数値を示す。

### ◎臨床検査技師国家試験

第26回 (59.3.11施行, 59.4.28発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
33名	12名	36.4%	55.3%

第27回 (59.9.15施行, 59.10.2発表)

7名	2名	28.6%	15.0%
----	----	-------	-------